



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 水とダイヤモンド

5

## 1. 水とダイヤモンド

Adam Smith の『国富論』には次の有名な事例の記述がある。すなわち「水を使用する価値は極めて大きい、それを交換する市場では微々たる価格である。これに対して、ダイヤモンドを使用する価値はほとんどないが、それを交換する市場の価格は極めて高い」(資料 1)<sup>[1]</sup>。ヒトの生命維持のためには水は不可欠であり、ヒトは水を消費しないで生きることはできないが、ダイヤモンドはヒトの生命維持には通常は不要と考えられる。ところがダイヤモンド価格は同じ重量の水よりもはるかに高価である。この逆説を経済理論でどのように説明できるであろうか。

10

15

## 2. A.Smith の挑戦

Smith はこのパラドックスの経済理論による説明を試みた。第 1 に Smith は財のもつ価値を、「使用価値 (value in use)」と、「交換価値 (value in exchange)」とに区別して説明を試みている。水は使用価値は大きい、交換価値が大きいとは限らない。他方、ダイヤモンドは使用価値は小さい、交換価値は大きい。

20

さらに、Smith は財の価値をもたらすものとして、それが他の財を購入することを可能にする交換価値は、それを作り出すのに必要な労働力に基づくとする「労働価値説」を提示した。

このような使用価値と交換価値の区別、価値の源泉としての労働価値説の Adam Smith の説明は学

25

<sup>[1]</sup> 実際の価格について、現在の日本における例を考えてみよう。高品質の 1 カラット (約 0.2g) のダイヤモンドの価格を 10,000USD, 1,200,000 円とする。他方、ペットボトルの水は市販されている水としては高価であり、これを 500ml で 100 円とする。同じ 1g あたりの価格を比較すると、ダイヤモンドは 50,000USD, 6,000,000 円に対して、水は 0.2 円となる。確かに 1g あたりの価格は大きく異なる。

本事例は慶應義塾大学大学院経営管理研究科の姉川知史がクラス討議のために作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 2015 姉川知史 (2015 年 6 月, 2017 年 5 月改訂)